

## スピーチの産出・理解・相互交流能力の発達

お茶の水女子大学附属中学校 花田 修一

キーワード：スピーチ、伝え合う力、相互交流能力、話すこと・聞くこと、人間発達

## 1 研究の目的

本研究は、お茶の水女子大学（以下本学と称す）の幼稚園児から小学生・中学生・高校生・大学生・留学生が、「わたしのだいじなもの・こと・ひと」というテーマでスピーチをした過程とその結果を比較分析し、スピーチの産出・理解・相互交流能力の発達について考察することを研究の目的とした。

①話し手は、何についてどのように話したか。（話す力）

②聞き手はどのように理解したか。（聞く力）

③スピーチの後、話し手と聞き手はどのように交流したか。（話し合う力）

## 2 研究の計画

本学の国語科・言語文化学科を中心とする幼稚園から大学までの教官が月一回の「音声言語習会」に参加している。第1回が1995年10月であった。以来、6年に亘る実践と研究を積み重ねてきた。これまで、ディベート、パネルディスカッション、音読、朗読、群読、スピーチなどの実践報告を通して、各学校段階相互の交流を深めている。

本研究は、1998(平成10)～1999(平成11)年度の実践研究を中心としたものである。幼児・児童・生徒・学生・留学生のスピーチ実態把握を中心として、その産出・理解・相互交流能力に重点をおいた研究を計画した。

その際、次の3点に留意した。

①各校園のスピーチの話題一覧表を作成すること。

②担当の学年年齢でスピーチを実施しそれぞれの事例について考察すること。

③スピーチの事例をビデオやテープに

入れ、後に文字起こしをし、メモや評価表などの資料を確保しておくこと。

## 3 研究の方法

研究目的や研究計画を確認した後、次のような研究方法を設定することにした。

(1)仮説主題を「心の交流を図るスピーチ学習のあり方」とする。人間としての絆を深めるヒューマンコミュニケーションを重視する。

(2)スピーチのテーマを「わたしがだいじにしているもの・こと・ひと」とする。スピーチの実態を把握し、基礎データを作るという考えから、教官はあまり指導の手を入れないことを原則とする。

(3)スピーチが単なる情報伝達の一方向にならないように配慮する。

(4)スピーチのテーマの提示や手順の説明は、学年発達に応じて行う。

(5)実際のスピーチにあたっては、次の点を留意する。

①時間：特に指示はしないが、質問も含めて一人の持ち時間を5分以内とする。

②メモ：スピーチ用のメモは作ってもよいが、できるだけ見ないで話す。

③事物：事物や写真などを使ってスピーチしてもよい。

④質問：質問者は数名とする。スピーチの内容を引き出すようにする。

(6)ビデオやテープで必ず音声を残す。写真や映像も記録し保存する。

(7)評価の方法は、次の3つの観点を基準にし、発達段階に応じて工夫する。

①話題：「だいじにしているものやことやひと」は何でしたか。（話題の認識）

②話し方：わかりやすいスピーチでしたか。（発声・構成などの表現技術）

③意図：考えや思いは伝わりましたか。  
(伝達性や共感性)

また、研究資料として検討するために、自己評価表や相互評価表などの記録用紙を作成し、保存するようにした。評価は、3段階(たいへんよい、よい、もう少し)で行い、よかった点をメモするようにした。また、教師の評価の観点を次のようにした。

①話す速さ：速い 普通 遅い

②声の大きさ：大きい 普通 小さい

③聞き手意識：ある ない

聞き手意識については、表情やしぐさや視線などの観察を基に判断した。

なお、調査の対象人数は各段階30名とした。ただし、分析の実施対象人数は、最大1クラス、最小10名とした。

#### 4 研究の内容と考察

研究内容のまとめ方については、スピーチの話題一覧表、スピーチの事例とその考察、資料などを中心にまとめることにした。最も留意した点は、スピーチ自体の実態を把握することであった。

以下、研究内容の概要を示す。

##### (1)スピーチの話題一覧

本学の幼稚園児から留学生までのうち、次に示したのは、幼稚園児、小学校2年生、4年生、6年生、中学校3年生、高校3年生、大学生、留学生のスピーチ話題一覧の一部である。

##### 幼稚園

性	年齢(才月)	宝物、大事なもの
女	6才1ヶ月	リカちゃん人形
女	6才0ヶ月	ウサギの人形
男	5才6ヶ月	自転車
男	5才5ヶ月	スターウォーズ基地

##### 小学校2年生

性	話題	実物
男	友達	
男	ムササビの人形	
女	一輪車	
女	パンダネズミ	絵

##### 小学校4年生

性	話題	実物
男	動物のゴム人形	○
男	ハーモニカ	
女	ハムスター(スノ-初仔)	
女	お母さん	△

##### 小学校6年生

性	話題	実物
男	野球	○
男	友達	
女	小さい頃の思い出	
女	ハムスター	

##### 中学3年生

性	話題	実物
女	友達	写真
女	乗馬	
男	マイベッド	
男	ミスチルのアルバム	

##### 高校3年生

性	話題	実物
女	地球上の問題について、日頃心がけていること	
女	昔の日記	○
女	アメリカのアイドル“ニユーキッドオンザブロック”	○
女	スポーツのチケット	○

##### 大学生

性	学年	話題	実物
女	4	ことばに気持ちをこめること	
女	3	一人でいる時間	
女	3	寝床	
女	3	健康	

##### 留学生

性	国籍	話題	実物
女	韓国	家族と自分	
女	韓国	母の愛	
女	中国	両親の愛	
女	韓国	思い出	

## (2)スピーチの話題と考察

以下に示すのは、中学3年生のスピーチの話題や内容を分析し、考察したものの一部である。

### ①スピーチの話題と考察

話題の一覧表を見るとわかるように、中学3年生は、次のような傾向を示している。

- 具体的な事物を挙げた話題－水晶、竹刀、カードゲーム、時計など。
- 抽象的なものに関する話題－考える時間、生きている空間、リラックの時間など。
- 趣味や特技に関する話題－バスケットボール、読書、野球、釣りなど。
- 健康に関する話題－睡眠、身体、足など。
- 場所や位置に関する話題－自分の部屋、マイベッドなど。

### ②スピーチの分析と考察

3年生のスピーチは、1998（平成10）年4月から5月にかけて、中学3年生の各教室で収録したものである。全てのスピーチをビデオに収め、その後カセットテープに再録した。

#### (1)学習展開の概要

事前の予告として、「自己紹介を兼ねて、次の時間からスピーチをします。『わたしの大事なもの・こと・ひと』というテーマです。ひとり1～3分程度の時間です。こういうスピーチをすることで、自分のことを級友にわかってもらえるし、友達のことよくわかるようになります。お互いに理解を深めながら心の交流を図ってほしいと思います。またスピーチの仕方も学べます。」と話した。本時の初めに「スピーチにあたって」と次のことを板書した。

○話し手は前に出て、みんなの表情をみながら話す。（1～3分間）

○聞き手は次の項目に従って評価し、コメントを付す。

1 中心話題は何か。また、魅力的な話題だったか。

2 話し方（速さ・大きさ・間の取り方

表情など）はよかったか。

3 スピーチのよかったところはここです。（コメントを付す。）

4 一つだけ訊ねたいことがあります。（質問事項をメモする。）

A たいへんすてきです。

B まあまあです。

C もうちょっと工夫してみてもどうですか。

○スピーチが終わったら、2人が評価項目1～4について発表する。

○話し手は、聞き手の質問に答えて終わる。（ひとりの持ち時間は、5分以内とする。）

#### (2)生徒の反応

スピーチをした生徒および聞いた生徒の反応をいくつか紹介しておきたい。

・クラスで最初のスピーチでとても緊張したけど、楽しかった。人それぞれにだいじなものが違っておもしろかった。

・思わぬ過去をさらけ出すことになってしまって赤面した。中3ともなると去年とは違ってみんな大人に見えてくる。共感者を見つけてうれしかった。

#### (3)話し方に関する考察

##### ①話す速さや間の取り方

生徒たちの相互評価によれば、話す速さが遅いというのは皆無であった。少し速すぎるというのが40名中3名であった。残りは、聞き易い速さであったという評価であった。また、間の取り方では、40名中35名がちょうどよいという評価であった。残り5名の生徒は、間の取り方が短すぎたという結果であった。これは、少し速すぎるという生徒に対するものである。間の取り方が長すぎるというのは皆無であった。

生徒たちの相互評価はそれなりに妥当性がある。常に一緒に学んでいる教室で聞くスピーチあること、級友の話し方にそれなりに慣れていること、スピーチが進むにつれて級友から学ぶことなどの要因が考えられる。相互評価を積み重ねることによって、話す速さや間の取り方に注意するようになるのも事実である。

これが、下級生や大人に対するスピーチになるとどうなるか、聞き手を考えた話し方ができるようになるための今後の課題である。

### ②声の大きさ

生徒たちの相互評価によれば、声が小さいというのが40名中2名であった。他はちょうどいい、大きくて聞き易いなどの評価であった。

ほとんどの生徒が、教室内に聞こえる声で話していたことになる。声自体の高さや低さの個人差は見られたが、まずはほぼ満足の結果である。今後、教室以外の場所やマイクの使用などによるスピーチの経験も必要となろう。

### ③聞き手意識

生徒たちの相互評価によれば、例えば「メモを見ないでみんなの顔を見てゆっくり話していてわかりやすかった。」「語りかけるように話してくれて、よくわかった。」といったコメントがある一方、「顔をあげて話せば、もっとよかった。」「もう少し元気で、明るく、楽しく話して欲しい。」「みんなに話しかけるようにすれば、もっとよかった。」といったアドバイスや批評も見られた。

聞き手意識は、自分の考えや意図をなんとしても伝えたいという情意的側面と話し方の技術も含めた心のゆとりや経験の有無が大きく左右することがわかる。「表情が楽しそうで、聞いている人まで楽しくなってくる。」「一生懸命に話をしている、気持ちがよく伝わってきた。」などといったコメントが多くなるようなスピーチを期待したいし、それは話し手の聞き手意識を高めることにもなる。

### ④話の構成

最初に「だいじなものやことやひと」をずばり述べ、その後、理由や事実などを挙げてスピーチをした生徒が、40名中35名であった。つまり、頭括型の構成である。最後まで「だいじなものやことやひと」を具体的に言わずにスピーチした生徒が2名いたが、これは話の構成を工夫したものと思われる。1～3分間

のスピーチであると、話の構成を考えるのはあまり意識しないのが中学3年生の実態であった。

### (4)聞き方に関する考察

スピーチの評価の観点として、次の4点を挙げ、それぞれの項目に従ってABCの評定をし、簡単なコメントを付すように助言した。

○中心話題は何であったか。魅力的だったか。

○話し方（話す速さや間の取り方、声の大きさなど）はどうであったか。

○スピーチのどこが良かったか（長所）

○訊ねたいこと。1つだけ聞きたいこと。

このような評価項目に従って評価をしたり、コメントを付したりすることによって、聞き手は、集中して聞くようになった。これは、「自分のだいじなものやことやひと」という話題のおもしろさによるものも大きく影響していると思われる

## 5 研究の成果と今後の課題

本学の幼稚園から小学校・中学校・高等学校・大学の教官が月に一度集まって研究を進めることは、困難を極めたが、楽しいことでもあった。

以下、研究の成果と今後の課題とを記す。

(1)人間の発達に応じてスピーチの話題や話し方に段階があることが明らかになった。

(2)スピーチに質問コーナーを設定することで、相互交流能力の芽が育つことが明らかになった。

(3)今後は、スピーチの指導法の開拓や話し合いの方法の開拓を実践していきたい。

〈注〉 本発表要旨は、「平成10年度お茶の水女子大学学長裁量研究費補助金研究の研究報告書」（研究代表者・村松賢一・1999年3月）を基にして作成したものである。